

騒音に係る環境基準の評価マニュアル

道路に面する地域 編

平成27年10月

環 境 省

3.9 測定結果の整理方法

(1) 測定結果整理様式

騒音測定結果及び交通条件の測定結果は、以下の騒音の測定方法別に帳票に整理する。

- ①一定の実測時間を定め、騒音測定を行った場合
- ②観測時間をいくつかの実測時間区分に分け、連続測定を行った場合

(解説)

①一定の実測時間を定め、騒音測定を行った場合の整理方法

表 3-5 に一定の実測時間を定め騒音測定を行った場合の測定結果総括表を示す。

基準時間帯の L_{Aeq} は、観測時間別 L_{Aeq} のエネルギー平均により求める。

基準時間帯の時間率騒音レベルは、実測時間に得られた観測時間別の値を算術平均することでは正確には算出できないが、運用上は算術平均値を基準時間帯の時間率騒音レベルとして扱ってもよい。

②観測時間をいくつかの実測時間区分に分け、連続測定を行った場合の整理方法

表 3-6 に連続測定を行った場合の測定結果総括表を示す。

観測時間別 L_{Aeq} は、有効な実測時間区分別 L_{Aeq} をエネルギー平均することにより求める。

基準時間帯の L_{Aeq} 、時間率騒音レベルは、①と同様に処理する。

(2) 測定結果の表記方法

騒音測定結果の処理及び表記は、観測時間別 L_{Aeq} からエネルギー平均により基準時間帯騒音レベルを求める。処理の途中では、有効数字 3 桁、小数点 1 桁表示とし、最終的な基準時間帯騒音レベルを公表する場合などは、四捨五入した後、整数表示とする。

また、基準値等と比較する場合は、整数化した騒音レベルを用いて行う。

(解説)

整数化した騒音レベルを基準値等と比較し評価する場合は、例えば基準値が 60 dB であれば、整数化した後の 61dB 以上の騒音レベルを基準値が超過すると判定する。

表 3-7 騒音レベルの測定結果の例 (単位: dB)

地面からの高さ	道路端からの距離	
	20m	30m
4.2m	60.4	59.7
1.2m	60.7	60.1

表 3-8 整数化後の騒音レベルの表示例 (単位: dB)

地面からの高さ	道路端からの距離	
	20m	30m
4.2m	60	60
1.2m	61	60

色付きの測定点が環境基準 60dB を超過している。